

長崎留学生支援センター

事業名	長崎市民と長崎地域の大学等の新入留学生、日本人学生に対する平和学習及びバスハイク						
実施期間	平成27年6月6日、平成27年11月14日						
場 所	長崎平和会館						
参加者	外国人留学生	地域住民	学生	スタッフ	関係者	来場者	合計
	502	8	22	24	35	5	596 名

<実施内容>

〈午前〉
各大学→長崎平和会館(被爆体験講話、意見交換)
(新入留学生、日本人学生、長崎市民)
昼食
〈午後〉
・A班 長崎歴史文化博物館→平和公園・原爆落下中心地→長崎原爆資料館→各大学
・B班 平和公園・原爆落下中心地→長崎原爆資料館→長崎歴史文化博物館→各大学
(新入留学生、日本人学生)



平和講話を聴く参加者

長崎平和大学は長崎県民と長崎地域の新入留学生、日本人学生に対する平和学習及びバスハイクです。本事業は公益財団法人中島記念国際交流財団助成を受けて、平成21年度から年2回実施しています。今年は6月6日と11月14日で実施し、日本を含む26カ国・地域からの学生524名の参加がありました。

午前中に長崎平和会館で被爆者の深堀譲治さんをお迎えして、原爆が落下した時の町の様子、人々の苦しみ、悲惨さを写真を見せながら、語りました。講話後、学生から質問があり、さらに意見交換をしました。

午後は平和案内人(ボランティアガイド)の説明を受けながら長崎平和公園、原爆落下中心地等の被爆遺構を巡り、原爆の実相についていろいろ勉強しました。その後、長崎原爆資料館、長崎歴史文化博物館を見学し、江戸時代の奉行所を再現した時代劇を見るなど、長崎の文化・歴史について学びました。

戦争を体験したことない若い世代にとって、被爆地である長崎で世界の国々からの留学生及び日本人学生が一堂にし、このような平和学習を通して、戦争の悲惨さ、人々にもたらす苦しみ、悲しみを理解し、平和の大切さを学ぶことはとても有意義なことです。戦後70年になった今日では、戦争への記憶が薄れていく中、このようなイベントがもっとも大切だと感じています。今後もこのようなイベントをしたいと考えています。

<参加者からのコメント>

留学生(中国出身)/(Foreign student, Chinese)

今日は原爆が投下された時の話を聞きました、とてもショックでした。戦争というものは人類に凄まじい被害をもたらしています。何も罪のない一般の人が無差別に殺されるのは人類の文明に反するものだと思います。

原爆はもちろん、すべての武器をやめ、戦争のない社会を作ることがとても大事だと思います。平和の願いを込めて、これからも自分ができることから戦争のない世界を作り上げていきたいと思いません。

留学生 活水女子大学(国籍未記入)

戦争と原子爆弾の残酷さ知り、戦争には絶対反対の態度をとろうと強く思った。どんな理由があっても、戦争は一般市民に不幸をもたらすもので、平和が一番だと思う。